

介護に関するインターネットアンケート

1 介護をする立場になったことがありますか?
(回答者206人)

ある	68人
ない	138人

平成26年10月、インターネットの口コミサイト「ぐんラボ!」で、同サイト登録者を対象にアンケートを実施。206人から回答がありました。

特集 介護の現場を見て考える

高齢化はひとごと?

問い合わせは 市政発信課 ☎027-898-6642

「2025年問題」という言葉を聞いたことがありますか。2025年は団塊の世代が、75歳以上の「後期高齢者」になる年。今後は、医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれます。

この特集では団塊の世代が65歳になった今、高齢化について考えます。

総務省が敬老の日に合わせてまとめた、ことしの9月15日時点の人口推計では、65歳以上の高齢者の人口は、3,296万人。前年と比べて111万人増、総人口に占める割合は25・9割となり、人口、割合ともに過去最大となりました。

これは昭和22年、24年の第1次ベビーブーム期に生まれた世代（いわゆる団塊の世代）のうち、昭和24年生まれが新たに65歳に達したことによるものと考えられます。総人口は21万人減少しているため、高齢化が一層進んだといえます。なお、前橋市の住民基本台帳を基にした集計では、9月末日時点における65歳以上の人口は8万8,920人。割合は26・1割で、全国平均をわずかに上回り、2025年の予測では29・0割となっています。

高齢化の進展は、年金や医療費、介護費を膨らませ現役世代の負担が重くなるという問題もありますが、それだけではありません。介護という私たちにとって最も身近で大きな問題も存在します。

高齢者の介護は、そのほとんどが長期にわたります。高齢化により介護を必要とする高齢者の割合は増加し、一方で少子化により介護をする若い世代は減少しています。

今回の特集に合わせて行ったアンケートでは、約3分の1の人が介護をする立場になったことがあり、実際に介護（する立場）を経験した人たちの大半が精神的・肉体的負担や仕事との両立に苦労したと回答しています（関連記事5ページ表）。

自分が若くて両親も健在であれば、介護なんてひとごとだと思ってしまうがちです。しかし、そのまま時間が過ぎていくわけはありません。今、介護なんてひとごとだと思っている人たちにも、いつ突然、介護問題が降りかかってくるかわかりません。高齢化の今、元気なうちに介護について考えておくことは必要です。

この特集では、さまざまな立場で介護や介護予防に取り組む人たちに焦点を当てています。この機会に高齢化や、介護に対する備えについて考えてみませんか。